

## 【ぜひ】アッシュさん～イラク帰還兵～ のお話を聴いて下さいませ

前田真吹（しぶき）さん

毎日暑いですね🌞 いかが、お過ごしでしょうか？

さて、これまでも、日本に何度か来日され、講演活動を行ってこられた、イラク帰還兵のアメリカ人のアッシュ・ウールソンさんを、ご存じでしょうか？

今、日本各地で講演会を行っておられます。

前田はひとりでも多くの、日本人に聴いていただきたい、28歳の、この青年に出会っていただけたら・・・と願っております。



アッシュさんは、家が貧しく、大学の費用が払えなかったため、州兵になったところ、軍の方針が変わり、本来、州兵は派遣されないはずの「戦争」に派兵されたそうです。

2003年に1年、イラク戦争に従軍され、帰国後 PTSD となり、今も、戦争の後遺症を持っておられ夜は悪夢を見て目が覚めたり、するといひます

アッシュさんは、帰国後「イラク帰還反戦米兵の会」に入り平和活動を始めます

辛い戦場の記憶を掘り起こしながら PTSD を乗り越えようと、懸命に、平和活動に励むアッシュさんの姿は

「人間とは、何なのか・・・？戦争とは何なのか・・・？」

とても深く考えるきっかけを、私自身、いただきました。

（アッシュさんは、首に巻いたスカーフに、沈静効果のある、ラベンダーオイルを、沁みこませてる。まだ、PTSD の症状があるため、イラクの話をしながらか、何度もスカーフに口をつけながら最後まで、話し通す。）  
話をしながら、浮かべてらっしゃる苦悩の表情に、前田は涙なしでは聞くことが、できませんでした

前田は改めて、自分の罪に、気づかせていただきました。

アッシュさんのような、学費が払えずに兵士になり、望まずに戦争の「加害者」側に立たされ一生の罪を抱え、悩み苦しむ方をもう私たちは、これ以上、創ってはいけなかと、心から、思いました。

私は、「魔法の9」の取材でアッシュさん一座と、2日間一緒に過ごさせていただきました。アッシュさんは屈託のないお人柄で普段の会話のなかで、よく笑う。でも、私には、どこか その笑顔が、泣いているように、見えた。

アッシュさんの歌声。どこか、いつも、泣いているように 私の耳には、聴こえました。

（沖縄ツアーも敢行され、沖縄の方々と交流し、話し合われた、アッシュさん。沖縄で作った歌を、歌って下さいました。  
♪ OKINAWA OCCUPIRATION （沖縄の占領） HENOKO ♪

アッシュさんは、イラクの子ども達を「天使みたいな子ども達」だった、と表現します。でも、次にこう、話されます。

「私たちアメリカ兵は、食べ物をちょうだい、水をちょうだい、と集まってくる、飢えに困る子ども達をパチンコで打ったり、銃を向けたりを、日常的にくり返した・・・」

私は、アッシュさんに「あなたの勇気を、尊敬します」と言わせていただいた事がある。

大きくかぶりをふってアッシュさんは、こう言った。



「私は、犯罪者側にいる、人間ですよ。自分の行いの、責任をとっている。それだけです。  
 (アッシュさんは、私たちの国・アメリカの行っている戦争は「侵略戦争だ」と訴えておられる)



イラクの人々の大きな犠牲(今も続く)を考えたら、私は、絶対に責任をとらなければならないのです」

アッシュさんは「責任」という言葉を喋るとき、いつも、少し、大きな声になる。これは、2年前にお話を聞いた際と、変わっていないようだった。

悪循環を呈し続ける今のイラクの現状に、胸を痛め続けているのだと、思う。

「もう一度、イラクに行きたい・・・。」遠い目でおっしゃったアッシュさんはいつかイラクに行つて、謝罪をしたい、と考えておられるようです。

もう、「戦争」は要らない。

前田も、改めて、自らの罪に気づかせていただきました。

イラク戦争も今、「主戦場」のアフガンも沖縄の米軍基地がなければ、成り立っていない戦争だ。多くの武器と、兵士が、この基地から出撃している。

もっと言えば、65年前に、日本がアメリカに

負けてから、ずっとアメリカの戦争を、手助けしてきた国。そうやって、豊かになった国。それが、日本だ。

(さまざまな史実を検証し、今の日本の豊かさは、戦争協力なくしてはなかった、と私は認識しています。)

市民のひとりとして、もう、私たちの税金で人を殺す手助けは、やめにしてほしい。

「魔法の9」は今回、アッシュさんの涙に出会いさらに、加速しました。

9条が変われば、日本の若者もアッシュさんと同じ涙を流し苦しむことになるでしょう。

実は私は、「憲法(9条)を変える」こと自体に絶対反対、という訳では、ないのです。

世界情勢・今の日本の政治の中で「憲法改正」する事が目に見えて、「アメリカの戦争に付いて行くこと」に繋がっていることが、分かるから、怖いと思っているのです。

ごめんなさい。 ありがとうございます。  
 さらにさらに信じて、進みます。

人と人のつながりを これからの日本は、思い出してつながっていく。 そうして、たいせつなことを、共有していきたい。

長々とごめんなさい — m

どうぞ、よろしければ、アッシュさんのお話を聞いて出逢っていただけたら幸いです ✨

お読みいただき、ありがとうございます

mixi しぶきさん7/8日記より

アッシュさんについて



2003年から1年間、イラクに派兵された元米軍ウィスコンシン州兵のアッシュ・ウールソンさん(28)が16日から、沖縄を訪れている。今回が初来県で、「イラク帰還兵アッシュを沖縄に呼ぶ会」(城間えり子代表)の招きに応じた。28日まで滞在し、県内各地で講演会を開くほか、米軍普天間飛行場移設で揺れる名護市辺野古も訪問する。ウールソンさんは17日に豊見城市内で開かれた講演会で、県内の米軍基地についても講義する。講演会の問い合わせは呼ぶ会の村松さん(090-1946-1364)。

## 「基地安全守らない」

イラク帰還兵・ウールソンさん

### 「平和願う心」共有強調

「東アジアの安全を守るためのものではない」と抑止力を否定し「平和を願う心を共有しよう」と訴えた。ウールソンさんは大学進学のため1999年、ウィスコンシン州陸軍に入隊した。イラク戦争が始まった03年、米軍所属の兵士が不足したためイラク南部のアナゼリアに派兵され、基地建設などに当たった。04年に帰国後「反戦帰還兵の会」の活動に参加し、日本でも講演活動を行っている。ウールソンさんはイラクでの経験から「戦争は世界の安全を確保するためのものではなく、お金をもつだけとする一部の人間の貪欲さによって起こる」と強調。日本の中でも沖縄に米軍基地が集中していることに「基地周辺で発生する(米兵による)暴力事件を見れば、安保条約を維持する(と)はない」と話した。ウールソンさんは19日午後2時から与那原町コミュニティセンターで講演会を開くほか、県内の各大学でも講義する。講演会の問い合わせは呼ぶ会の村松さん(090-1946-1364)。